

## 8. 医学部

(1) 医学部の教育目的と特徴	8-2
(2) 「教育の水準」の分析	8-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	8-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	8-10
【参考】データ分析集 指標一覧	8-12

## 富山大学医学部

### (1) 医学部の教育目的と特徴

富山大学医学部は、300年の「富山のくすり」の歴史を背景に、昭和50年に富山医科薬科大学として創設された。創設時から、薬学部・和漢薬研究所（現・和漢医薬学総合研究所）と密接に連携し、東西医学融合を目標に特色ある教育研究活動を展開してきた。さらに、平成5年に看護学科が設置され、同年、医学部に日本で最初の和漢診療学講座を開設した。この「東西医学融合による東洋の知の創生」という目標は、平成17年10月に県内三大学統合後に新富山大学がスタートしてからも受け継がれ、最善の医療技術を提供できる心豊かな医療人を輩出している。

本学部は、生命の尊厳を理解し、医療人として不可欠な深い倫理観と温かい人間性を備え、専門的知識及び技能を生涯にわたって維持し向上させる自己学習の習慣を持ち、国際的視野に立って医学、医療の発展、及び地域医療等の社会的ニーズに対応できる人材を養成することを目的としている。

日々進歩する医学の知識、技術を身につけ、医師・医学者として、豊かな人間性を備えた医療の実践及び医学の発展に取り組むことのできる人材養成を目的とする医学科と、全人的な看護の役割と責務を認識し、看護師、保健師及び助産師としての専門的な対応ができる人材養成を目的とする看護学科の2学科を設置している。

薬業の長い伝統を有する富山で医学と薬学の有機的な連携のもとに東西医学の統合の理念を掲げ、地域医療に貢献し世界的にも活躍する人材の育成に努めており、常に世界との連携を指向しながら下記の特徴ある教育研究を推進している。

- ・ 伝統医薬の富山で先端医科学を指向し、「西洋医学と東洋医学の融合」と「医学と薬学」の連携を理念とし、「慈愛の精神」を育む教育を行っている。
- ・ 医学科6年、看護学科4年の一貫教育を行い、医学科、看護学科及び薬学部学生へ共通の特色ある教育プログラムを提供し、文字通り患者一人一人の痛みに思いを馳せることのできる医療人養成を行っている。1年次には「医療学入門」、2年次には「和漢医薬学入門」を開講し、伝統的な東洋医学に現代医学の成果を織り込みつつ、先端的医学知識を身につけた意欲的な学生の育成をしている。
- ・ 医学科の専門教育では、従来の講義形式の授業と並行して、自分自身で問題点を発見し解決する問題解決型の教育を多く取り入れ、臨床実習では、実践的スキルを身に付けられるよう配慮している。また、患者の心の痛みにも目を向け、社会的な支援システム等も理解し、地域医療にも早期から慣れ親しむためのケアマインド、地域医療マインド育成にも力を入れている。これらの取組を通じて、総合的・専門的な基礎・臨床能力を高め、医師としての倫理観、人間性の涵養を図り、地域医療に貢献し、国際的に活躍できる全人的医学教育を推進している。
- ・ 看護学科の専門教育では、実習施設・症例数の確保、実習内容の充実を図り、全学生の看護師及び保健師の免許取得や、選抜制による助産師の免許取得に必要な教育内容を行っている。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目 1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・公表された学位授与方針（別添資料 3708-i1-1～2）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目 2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・公表された教育課程方針（別添資料 3708-i1-1（再掲）、3708-i1-2（再掲））

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目 3 教育課程の編成、授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・体系性が確認できる資料（別添資料 3708-i3-1～2）
- ・自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 3708-i3-3～8）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学教育モデル・コア・カリキュラムを基にした教育課程を編成するとともに、医学部医学科コンピテンシーを制定し、構成員に周知した（別添資料 3708-i3-9）。また、コンピテンシー基盤型教育の充実のために、Mini-CEX 等のコンピテンシー評価方法に関する FD を実施し、教員の能力向上を図るとともに、学生の能力向上を目的として、臨床実習中におけるシミュレーション教育を充実させた（別添資料 3708-i3-10）。[3.1][3.2]
- 看護学教育モデル・コア・カリキュラムを基にした教育課程を編成し、全人的な看護の役割と責務を認識し、看護師、保健師及び助産師としての専門的な対応ができる人材を養成するための体系的な教育を行っている。また、看護実践能力の修得項目チェック表（別添資料 3708-i3-11）と各授業科目との照合を行い、卒業までに身に付けておくべき能力（教育成果）の明確化を図っているところである。[3.1][3.2]
- 各キャンパスで個々に実施していた教養教育を一元化し、主に五福キャンパスに

## 富山大学医学部 教育活動の状況

において実施することで、専門基礎科目とともに、多様な領域の学修がより可能となった。また、他学部の学生と同じ授業を履修することにより、交流の多様性が増した。[3.4]

### <必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

#### 【基本的な記載事項】

- ・1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 3708-i4-1）
- ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 3708-i4-2～5）
- ・協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 3708-i4-6）
- ・インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 3708-i4-7）
- ・指標番号5、9～10（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学習管理システム（Moodle3）により、講義資料の事前提供や、学生からの学修成果の登録、教員へのフィードバックによる教育改善を行っている。  
具体例としては、学生自身が経験した診療参加型臨床実習における医行為の登録や、学生が登録した医行為を集計（別添資料 3708-i4-8）した後、担当教員へフィードバックし、経験が少ない医行為の増加や、シミュレーション教育による代替などにつなげている。[4.1] [4.2] [4.3] [4.6]
- 臨床実習や臨地実習を附属病院や市中病院等で行っているほか、座学においても大学以外の施設の職員を招き講義を行っている（別添資料 3708-i4-9）。[4.1][4.2][4.6]
- 「看護研究入門」の講義において、日本学術振興会研究倫理 e-learning コースを必須受講として、研究倫理教育の充実を図っている（別添資料 3708-i4-10）ほか、産学官民協働研究「マイクロソフトのテクノロジーを活用した『富山発・高齢者向けホコケン IoT プロジェクト』」等のプロジェクトに学生が参加し、企画・立案、準備等を学生自身が行うことにより地域住民との交流など、多様な学修の機会を提供している（別添資料 3708-i4-11～14）。[4.1] [4.2] [4.5]

### <必須記載項目5 履修指導、支援>

#### 【基本的な記載事項】

- ・履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 3708-i5-1）
- ・学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 3708-i5-2）
- ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 3708-i5-3）

- ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 3708-i5-4）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 新入生オリエンテーション、年度当初のオリエンテーション、クラスアワーや学生団体講習会等を実施し、修学上の注意点や、不正アクセス防止等の生活面での指導を行っている。特に、年度当初の各学年に対して実施しているオリエンテーションは、その学年における履修上のポイントを明示してほしいという学生からの要望を踏まえて開始したものである [5.1]
- クラス担当教員やグループ担任制度（別添資料 3708-i5-5～6）を実施しているほか、学科と学生支援センター（学生相談窓口、アクセシビリティ・コミュニケーション支援室）や保健管理センターとの連携を密にし、相談しやすい体制をとっている。[5.1]
- 進級判定や卒業判定において、進級・卒業が不可と判定された学生とその保証人と面談を行い、次年度以降の修学支援を行っているほか、年度途中においても、必要に応じて面談を行っている。また、その内容を学務情報システム（ヘルンシステム）内の「学生カルテ」に記録している。これらの支援の結果、複数の要因があると思われるが、近年留年者が減少傾向である。[5.1] [5.2]
- 自己推薦入試「富山県特別枠」を利用し入学した学生には富山県と協力して個別面談を行っているほか、推薦入試「地域枠」を利用し入学した学生に対しても学内教員が個別面談を行っている。また、地域枠・特別枠の学生を対象としたキャリアパス・ガイダンスを実施し、一般学生も参加可能としている。[5.1] [5.3]

**<必須記載項目 6 成績評価>**

**【基本的な記載事項】**

- ・成績評価基準（別添資料 3708-i6-1～4）
- ・成績評価の分布表（別添資料 3708-i6-5～6）
- ・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 3708-i6-7）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 平成 30 年度に医学部医学科コンピテンシーを制定し、卒業時までまでに修得しているべき知識・技能等について明確化した（別添資料 3708-i3-9（再掲））。また、臨床実習中に学生が経験した医行為等のデータを収集し、各診療科にフィードバックしているほか、FD や臨床教育医長の会を通じ、臨床実習中における Mini-CEX 等の導入を図っている。[6.1] [6.2]

## 富山大学医学部 教育活動の状況

- 医療系大学間共用試験実施評価機構のトライアルに参加し、臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CC OSCE）の評価機構から求められた試験問題に加えて、本学独自の試験問題を作成して使用するなどの充実を図った（別添資料 3708-i6-8）。[6.1]

### <必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

#### 【基本的な記載事項】

- ・卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 3708-i6-2（再掲））
- ・卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 3708-i7-1～2）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学科では、医学教育モデル・コア・カリキュラムを基にした教育課程を編成するとともに医学部医学科コンピテンシーを制定し、卒業時まで修得しているべき知識・技能等について明確化を図った（別添資料 3708-i3-9（再掲））。コンピテンシー基盤型教育では、教育アウトカムとして知識だけでなく、技能や態度が十分な水準にあることが求められる。そのため、医療系大学間共用試験実施評価機構のトライアルに参加し、臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CC OSCE）の評価機構から求められた試験問題に加えて本学独自の試験問題を作成して使用するなどの充実を図り（別添資料 3708-i6-8（再掲））、技能及び態度を評価した上で卒業判定する仕組みを構築した。[7.1]
- 看護学科では、看護学教育モデル・コア・カリキュラムにおけるコアとなる看護実践能力の修得項目チェック表（別添資料 3708-i3-11（再掲））と各授業科目との照合を行い、卒業までに身に付けておくべき能力（教育成果）の明確化を図っているところである。[7.1]

### <必須記載項目 8 学生の受入>

#### 【基本的な記載事項】

- ・学生受入方針が確認できる資料（別添資料 3708-i1-1（再掲）、3708-i1-2（再掲））
- ・入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・入学定員充足率（別添資料 3708-i8-1）
- ・指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 富山県教育委員会主催の「アカデミック・インターンシップ」に協力し、県内の県立高校から2年生を受け入れ、医学または看護学に関する講義、体験実習を行った。（2019年度医学科9名、看護学科8名が参加）。医学科では、腹部超音波および心音・呼吸音に関するシミュレーション実習を行ない、新聞報道された（富山新

聞 2019 年 7 月 30 日) (別添資料 3708-i8-2)。また、看護学科では、フィジカルアセスメントに関する模擬授業及び体験型学習を行った(別添資料 3708-i8-3)。

[8.1]

- 本学卒業生の地域定着を高めるためには県内高校出身率を向上させることが重要であることから、医学部に一定数以上の受験実績のある富山県内の高校を訪問し、校長、教頭、進路指導教諭、学年主任等に対して、医学部の概要説明(入試、教育課程、国家試験合格状況、就職等)及び、各種情報交換を行った(別添資料 3708-i8-4~6)。また、その際の高校からの要望を医学部入試委員会で検討し、合否判定方法の見直し(別添資料 3708-i8-7)などの入試改革に反映した。[8.1]
- 医学部進学フェアに参加し、受験生に対する医学部医学科概要に関する情報提供、受験生との個別相談による受験者の本学医学部医学科受験に対する悩みの解消、受験生のニーズ把握を行った。[8.1]
- 平成 28 年度から平成 31 年度までの入学者選抜試験のデータを分析し、各入試区分の受験者と合格者の大学入試センター試験の試験科目得点、個別学力検査の試験科目得点、県内高校出身率、性差等を評価して、各入試区分の特徴を把握した。また、その IR 結果(別添資料 3708-i8-8~9)に基づいて特別入試の合否判定方法等の見直しなどの入試改革に反映した。また、一般入試についての入試改革の検討を開始した。[8.2]

## <選択記載項目 A 教育の国際性>

### 【基本的な記載事項】

- ・協定等に基づく留学期間別日本人留学生数(別添資料 3708-i4-6(再掲))
- ・指標番号 3、5(データ分析集)

### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 令和元年度から、ハワイ大学が提供している医学教育プログラムを導入し、学生はハワイ大学が提供しているオンラインの医学教育プログラムを視聴できるほか、ハワイ現地での実習に 2 週間参加可能となっている。また、5~6 年生はハワイ大学式の診療参加型実習を行っている国内の病院において臨床実習が可能となっている。[A.1]

- 医学科 5~6 年次の選択制臨床実習では最大 7 週間としていた海外での選択制臨床実習期間を、医学教育の国際化を推進すること等を目的として 8 週間に延長した。また、派遣先として、令和元年度にタイのチュラロンコン大学やシンガポールの国立シンガポール大学での実習が新たに可能となった(別添資料 3708-iA-1)。[A.1]

<選択記載項目B 地域・附属病院との連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 富山県の保健や医療の現状と課題についての理解を深めるために、医学科4年生を対象に「富山医療学」を開設し、富山県砺波厚生センター所長、富山県医師会副会長等の県内の要職者を講師とし、地域保健における県の取組や医師会の役割等を学修しており、令和2年度には新たに富山県の保健医療行政について富山県厚生部次長による講義を実施することになった。(別添資料 3708-iB-1)。[B.1]
- 医学科4年次後期からの臨床実習において、1週間の地域医療実習を実施している。この実習では入院から退院、訪問診療等を一体的に学習している。また、5年次後半から6年次にかけての選択制臨床実習においても、富山県内の市中病院を中心に地域の病院での実習を7週間実施していたが、令和元年度から選択制臨床実習における実習期間を7週間から8週間に延長し、より地域医療について学修する機会を増加させている。[B.1]
- 富山県の寄附講座として、平成29年度に地域医療総合支援学講座が開設された。開設目的は主に2つあり、地域枠や富山県特別枠の学生の富山県内での地域定着を促進すること、また、富山県内の医師不足の現状分析を行い、医師が不足する地域への医師派遣の支援を行うことである。令和元年度の取組としては、富山県医師適正配置等調査、地域枠・特別枠学生に対するキャリアパスガイダンス、地域枠に関するFD等を実施した。学生の感想からは地域医療に貢献する動機づけになっていることが伺われた。[B.1]
- 看護学科3年次後期から4年次にかけての臨地実習では、富山県内の各厚生センターや老人保健施設、保育所等の施設に出向き、地域医療や地域包括ケアシステムを意識した学修を行うこととなっている。実習を行うことにより、地域医療の実情、また、看護対象者の表情や間の取り方など講義では得られない実践的な体験を行うとともに、講義で学んだ知識・技術等の統合を図っている。[B.1]

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学生による授業評価アンケートのデータを医師キャリアパス創造センターが分析し、担当教員にフィードバックした。また、授業評価アンケートで高評価であった教員を講師としたFDを実施(別添資料 3708-iC-1~2)して、どのような講義や実

習が高評価となるのか情報共有を行い、授業改善に役立てた。[C.1]

- 各学年の学生代表者が教員に加えて正規の構成員となっている医学部医学科カリキュラム委員会（別添資料 3708-iC-3）を開催し、学生と意見交換を行い、教育改善に活用している。[C.1]
- 日本医学教育評価機構（JACME）より医学教育分野別評価を受審し、適合しているとの認定を受けた（認定日：2018年3月26日（認定期間2017年4月1日から2023年3月31日））。現在、評価結果にもとづいた医学教育改革を実施している。[C.2]

#### <選択記載項目D リカレント教育の推進>

##### 【基本的な記載事項】

- ・リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 3708-iD-1）
- ・指標番号2、4（データ分析集）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 読売新聞社との共催事業として、富山大学の「知」の地域還元及びリカレント教育や生涯学習の場として、市民講座を開講している。平成28年度は「認知症最前線」をテーマに3回シリーズで開講した。平成29年度以降も「子供の健康を守る」「睡眠学のススメ」（平成30年度）、「未病学への招待」（令和元年度）をテーマに、毎年3回にわたり開講した。例年受講者数が100名を超える人気の講座であり、参加者からの評価も高い（別添資料 3708-iD-2）。その他、オープンクラスや公開講座等によりリカレント教育を実施した。[D.1]

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目 1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 3708-ii1-1～2）
- ・「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 3708-ii1-1（再掲）、3708-ii1-2（再掲））
- ・指標番号 14～20（データ分析集）
- ・医学課程卒業生の医師国家試験合格率（厚生労働省公表）
- ・看護学課程卒業生の看護師国家試験合格率（厚生労働省公表）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 第3期中期目標期間中の医師、看護師・保健師・助産師の国家試験の合格率は、全国の平均的水準かそれ以上で推移し、特に助産師では平成22年度以降、合格率100%を継続している。また、卒業年度に不合格であった学生に対して、学士研修員制度（別添資料 3708-ii1-3）を活用し、学修環境を整えるとともに、教員（クラス担当教員や指導教員等）が個別面談・模擬試験の案内・受験対応のフォローアップを行っている。[1.2]

### <必須記載項目 2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 第3期中期目標期間における看護学科卒業生の就職先は、約6割が県内総合病院である。また、卒業と同時に看護系大学院へ進学し教育・研究者を目指す学生は、平成28年度～令和元年度で9名である。[2.1]

### <選択記載項目 A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3708-iiA-1）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業時調査において、学位授与方針に記載されている能力をどの程度修得できたか評価したところ、問題解決能力などの多くの項目で肯定的な回答が多数を占めており、本学部における教育成果について、概ね良好な評価が得られている（別添資料 3708-iiA-1（再掲））。また、調査の結果を踏まえて課題として整理した外国語や国際性の修得に関しては、英語による授業（資料や解説での英語使用）がどの程度行われているか調査するとともに、英語による授業の増加について検討を開始し

た。[A.1]

**<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>**

**【基本的な記載事項】**

- ・卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3708-iiB-1～2）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

（特になし）

**<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>**

**【基本的な記載事項】**

- ・就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3708-iiC-1）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 看護学科修了者の富山県内就職先へのアンケートによると、看護の知識や実践力が高い、論理的思考力が高い、視野が広く問題意識も持って行動している等の意見が得られており、専門的な対応ができる人材の養成という看護学科の教育目的に沿った人材を輩出している。[C.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。